

5 家のでき上るのが楽しみです

豊丘村豊丘南小学校五年 Y・K

私の家はいよいよ建て、駅から六キロばかりの山の中でした。六月二十七日  
は思ひ出すのもおそろしい日があります。

その日は朝からジューロであけるようないきおいと昔を立ちまわった。家の  
近くの山がくずれ始めた。そのときは、昼食をたべ終わったころだった。

水の少ない小さな川であったのに、大きな川になつてどろどろと流れ、石も流れるのか、ごんごんと言ひんと言ひ音も聞こえた。大きな音はかみなりか、山くずれかと思つて、川の音がしなくなる。すると滝の音を聞くようになった。どろどろと言ひ音とも川はまるどろと水と木と土とのかたまりになつて流れる。私の家は高い所なのでみえる。まるどろと水と木と土とのかたまりになつて流れたよ、木が上へおたりしてすさまじかつた。私はただただふるえ、言うこともしらずに、雨にぬれるのむかきわす、ぼうっと見ていた。すると雨はしだいに大雨となり、家の中にもいるのもこわかつた。山くずれ、どろどろと川の音をおぞるおぞる聞いて、お父さんはかっぱすかたでもどろどろと来、

「これだけふれば、どこへも出ることができない。」

と言つた。道はくずれ、どこどこは田も流れるところだといつていた。じつとしていられない気持ちであつた。

夕方四時ごろには私の家の前もくずれ、ほら田を全部なめる様にして下の方にとんでいった。弟と私はお父さんたちの話を聞いて、どうなる事か、家のすみに小さくなつてふるえ、いた。その時、しんと言ひうような音がしたので、お父さんがとび出した。

「えらい事だ。家にはいられない。あぶない。」

とさわぐので出て見ると、東の方の家はどろにつつまれて、立つてもいない。私達は仕たくをしまし、おとなりにつつまれてもらつた。道は川のよう、水が流れて、おとなりによりやくの事にたどりついた。家はどろなるのだらう。

勉強用品だけ持った私は、弟と二人、家も見えないおとなりを考える事もできず、火にあたっていた。

夕方お父さんたちもおとなりに来た。話を聞いたら又家のうらがぬけ来て全部つぶれたと、青い顔で涙をぼとぼと落しながら話してくれた。私達の茶わんも、はしも、米も、みども、くつも、みんなぼろになつてどこかへ行っちゃったのだ。牛舎には乳牛が二頭いたが、ふじで、お父さんが来ると大きな足をぶろだらけにしてついで来たので、おとなりの牛舎に一籠につないだ。私がかわいがつてか、ついでいたうさぎと鳥はどうしたのと聞くと、暗くマ山の下になつたか生きまゐるかわからんと言つていた。

雨は夜になつても降り続いてる。今日はじうにもならんからといつておとなりの牛舎の二階で中た。米も、みどもおばさんがたいてくれてたべた。

二日たつたら雨がやみ、私達も行ってみたが、家はなくなつていた。ただ屋根が山の上のこのついでいただけだった。私の家はほうほうより大きかつたになおと思つたら、涙がおた。ふくあとからあとから出て来た。お父さんもお母さんも来まくれた人もみんな、

「家だけよかつた。子供が山の下に入ったらぞれこそ大さわぎだったに。」と口々に言つておるようだ。

みんなの家もすこしづつはこわれたと言つているが、道がなく見に行けなかつた。学校へも行けずこまゝでいた。しょう防の人達がなべやかまや米やもうぶをしょつて来まくれ、うれしくもうれしくとび上がった。

どのうちにみんなで木をせめて来て、家のあつた所でない方へ小さな家を建ててくれ、しばらくたつて十月ごろだつたと思ふが、家ができた。

お父さんやお母さん達は毎日こんな所におることはいやだといつて話していた。かいたくの人達十軒あつたが、みんな他村の方へ来てしまつた。今は畑だつた所も田も、木を植えてしまつた。

私と弟とお父さんお母さんは、村の中学へはいつて、お父さんは学校の公仕さんで、お母さんほきやう食婦さんで働いて、私達も本校へ行つてゐる。学校が近いので、かいたく地にいた時よりらくだ。お父さんもお母さんもふとつて来たようだ。お父さん、お母さん、がんばつてやつて下さい。

昨年十一月より始めて家を建ててくれゐる。小学校も近いし、おみせも近いし、道もよい所です。出来上るのが、私の何よりのたのしみです。うれしいのです。どうすればおぼろしかったり、かなしかったりした、かいたく地のさい畷の事など考える事もいやになる。

私も早く大きくなつて働いて、お父さんやお母さんをおいじにしてやりたい。苦ろうした事でしよう。

(三十八年)